



各 位

2022年11月9日

会社名 日本光電工業株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 荻野 博一
(コード番号 6849 東証プライム)
問合せ先 執行役員経営戦略統括部長 泉田 文男
(TEL. 03 - 5996 - 8003)

業績予想の修正に関するお知らせ

当第2四半期連結累計期間の実績および最近の業績動向等を踏まえ、2022年5月13日に公表しました2023年3月期連結業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	195,000	16,500	16,500	11,000	130.30
今回修正予想 (B)	208,000	19,000	23,500	16,000	190.19
増減額 (B-A)	13,000	2,500	7,000	5,000	
増減率 (%)	6.7	15.2	42.4	45.5	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	205,129	30,992	34,563	23,435	276.51

2. 修正の理由

売上高につきましては、上期に国内が想定を上回って推移したこと、海外においては現地通貨ベースでは概ね計画どおりだった一方で為替が想定よりも円安基調であることから、業績予想を修正しました。国内では、上期は、検査・手術件数の回復や設備投資の再開により、生体計測機器や検体検査装置が想定を上回って推移しました。下期は、引き続き顧客価値提案の推進、消耗品・サービス事業の強化に取り組めます。海外では、上期は、半導体の需給ひっ迫もあり新製品の中位機種ベッドサイドモニタの供給が遅延した米国が想定を下回ったほか、上海ロックダウンの影響により中国が低調に推移しました。一方で、医療機器の需要が堅調に推移したインド、東南アジア、欧州が想定を上回って推移しました。下期は、米国において新製品のベッドサイドモニタやマスク型人工呼吸器の提案強化に注力します。国内、海外ともに、下期の売上高は前年同期実績を上回る見通しです。

利益につきましては、物流費や光熱費等の上昇の影響が見込まれるものの、売上高が前回予想を上回る見込みであることから、上記のとおり修正することといたしました。

業績予想につきましては、半導体の需給ひっ迫等による製品供給問題を含め、現時点で当社が把握している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。今後の動向により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

第3四半期以降の為替レートは、140円/米ドル、140円/ユーロを想定しています。

※ 上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって記載の予想数値と異なる場合があります。

以上